

## 気象学会中部支部のこのごろ

岩 坂 泰 信

気象学会は、全国にいくつかの支部をもっていますが、それらのうちで最も若い支部です。会員は、富山、石川、福井、長野、静岡、愛知、岐阜、および三重の各県の会員によって構成されています。これをみてもすぐに想像がつくと思われませんが、中部支部の関係する場所は、さまざまな気象学・大気物理学の素材があります。北陸の雪、紀伊半島の雨、名古屋や四日市の汚染大気等々です。現在のところ『中部支部だより』と題する小冊子が定期的に発行されており、中部支部の会員の間に配布されています。この小冊子の内容は、支部で行なわれる種々の会合の連絡や報告、会員の研究報告や所感といったものが主なものです。このページを借りて支部だよりに掲載された論文や報告の題名を紹介し、中部支部の活動の一端を知っていただければ幸いです。

### 中部支部だより

創刊号 昭和50年6月

日本気象学会中部支部の発足にあたって；

磯野謙治

支部長あいさつ；矢崎敬三

名古屋大学のレーザーレーダ；岩坂泰信

総量規制について；小川 弘

中部支部発足に期待する；平沢健造

第2号 昭和51年3月

小氷河期の絵葉書；樋口敬二

オカルト天気予報；事務局

中部地方の昭和50年における天候経過；事務局

第3号 昭和51年7月

支部長あいさつ；柳原一夫

雷の遠隔作用；高木増美

第4号 昭和52年1月

キルナ滞在記（北極圏の雷と取り組んで）

；石川晴治

地域気象観測網；名古屋地方気象台・観測課

昭和51年の中部地方の天候経過；事務局

第5号 昭和52年8月

オーストラリアの雲物理研究所；小野 晃

中部支部の活動として、この『支部だより』の発行に加え、今年からは組織的に研究会が開かれることになりました。第1回目は、次の日程で行なわれます。

日時：昭和52年10月25日 13時～16時

場所：名古屋大学水圏科学研究所

テーマ：人間活動と気候変化について

世話人：武田喬男（名古屋大学水圏科学研究所，園部美尚（名古屋地方気象台）。

（10月7日記）